

J Aにいがた岩船

これまでの実践内容と成果

1. 農業者の所得増大と農業生産の拡大に向けた取り組み

◆ 常勤役員とTAC、農業融資担当による担い手農家・生産組織訪問 ◆

J Aにいがた岩船では、担い手農家や生産組織へのさらなる支援、連携強化の取り組みとして、平成29年度より地域農業の担い手に出向く担当者「TAC」2名を新設した。訪問先では、業務用米の推進や低コスト資材など様々な提案や、意見・要望等を収集した。

また、TAC活動強化として、常勤役員とTAC、農業融資担当、営農・経済部門長らが集まり、「TACミーティング」を開催している。訪問活動で聞き取りした意見・要望について報告し、対応策や改善策の検討を行い、J A事業改善につなげていく。

◎平成29年度 訪問件数：612件（月平均：25.5件）



◆ 農機具メンテナンス講習会 ◆

農作業事故防止に向けた取り組みとして、小型農機具やコンバイン、トラクターなどの農機具メンテナンス講習会を開催した。講習会には、担い手農家や生産組織代表者らが参加し、農機具のメンテナンス方法や点検調整のポイントを学んだ。あわせて、県内で発生している農作業事故の概要や具体例を説明し、安全に作業してもらうよう呼びかけた。

◎平成29年度 講習会実施回数：2回（6・11月） 参加人数：計35名



2. 地域の活性化に向けた取り組み

◆ 支店等協同活動・JAふれあい感謝祭で地域交流 ◆

チューリップ花摘み体験、親子料理教室、夏祭り縁日、行政と連携した地域イベント、著名人による講演会など、地域の特性を活かした活動を支店含む9事業所で実施した。

11月にはJAふれあい感謝祭を開催した。JA女性部や各部会等と連携し、飲食コーナー、地場産農産物販売、餅つき大会、スタンプラリー、〇×クイズなど、来場者に楽しんでいただける内容を企画。管内農作物及びJA事業について広くPRした。



自己改革完遂に向けた取り組み

◆ 農業者の所得増大への貢献

TAC及び営農指導員を中心に訪問活動を行い、担い手支援タブレット端末を活用した的確かつ迅速な情報提供や、担い手農家・生産組織等との関係強化を図り、農業者の所得増大と新規生産者の拡大につなげていく。

◆ 次世代への食農教育・地域活性化

収穫体験や調理実習等を通じて、食・農に理解を深めてもらおうと、次世代を担う子ども達を対象とした「JAめぐりスクール」を継続実施する。

(写真：平成29年度JAめぐりスクール：トマト収穫体験)



